



本日
風俗記
完

ル 8
1583



江古川同くあると云々... 善人向の整頓令等



序

往昔寂明寺禪公諸國の俗行として有司の法を
 用りて代りて宛新と通せりて政教の神と入世の
 一はるれはてを視察して人國化を修せりて
 被る年々の風俗恰と面とを修りて是を
 俗の成の一助なるがごとく善人信の國化の因
 此の徳と大徳とを修せりて人情の意とを
 之を修りて人情の意とを修せりて人情の意とを
 故の川の板取とて小國を修りて画那大國と
 去るの今に以て化寓内に於て人風移り俗を修り

上古の用山背山代等
 字ラ桓武帝遷都
 於高野詔之日此
 山河襟帶自然山
 為山城俗字
 平安京ト

人國記

畿内 人國記

山城

八郡二十一万六千七百五

青國の風俗ハ爾れ也ト云



多々のをりて水の火の深し他を不好するを
 故ふ人の層層なり婦人の容色も其の如き
 此れを武士の風俗ハ柔として不直なる婦人
 脱卷の旁ト云



城の茶や今の園は不だの... 小者養ふはま... 背し易く又...

梅ふ高まると方山園南水... 中平地あり則平子の都あり... 比四村のまき署名... 日信市舎... けり... 目あり... 名...

徳礼信弱... 国中... 十一

十一 人和

本作山跡字而三帝都... 徳名大和ト和ト... 和國ト又天... 日本國ト名

貴國... 貴國... 大搬... と所... 各... 多... 梅...

小治政の事起ると此年迄の所あるは故京の
の事と云ふなり南に大なる處に大なる事と云ふ事
得ざるなり此國人は一神武天皇始に都を
たんとせりやうやくの初にたれりたれり
相授ふるなり自然に名知の事受ると申す
後しく考辨し定院をのこす所は信者別
年古直なり江戸の事起ると此年迄の事
相授ふるなり

河内

昔の事、信者上下男女老幼、皆集りて、
その具、木、竹、枝、石、土、瓦、石、瓦、

下は、信者、信者、信者、信者、信者、
信者、信者、信者、信者、信者、
信者、信者、信者、信者、信者、
信者、信者、信者、信者、信者、
信者、信者、信者、信者、信者、

梅も、梅も、梅も、梅も、梅も、
梅も、梅も、梅も、梅も、梅も、
梅も、梅も、梅も、梅も、梅も、
梅も、梅も、梅も、梅も、梅も、
梅も、梅も、梅も、梅も、梅も、

梅も、梅も、梅も、梅も、梅も、

和泉

昔國の風俗おて身義向し上りてをくは
まはししを云にかつて見ひらもさる本紙は
丹の多き刺刀のやしお世所人の風俗おて
利のぬれん人の何とを集する坂東の國の
教養よく集する所ありて人おお知てよく
御してゆると必とんと別れ力所ありて
梅もあまの東より西北海邊より國中平泉の
室の若し内より一も若の西段不室の質
濱もあまのなせ殊と坂の地所謂のあり又
なる人なりと上りてとありて

大坂 地略ハ東生西生 攝津 十三之郡 十三方八寸七厘

あまの門俗大深山城國少いなり 野津武生
少し所人百姓の多し如く武蔵國とあまの
七の志根は海也利防の為とありて
舟のわたり細波をふるを瀬とて一昔の
ふ瀬流し己より舟人の舟と接せしむる
少し北郡少津波とありて流るのあり上り
おの免しよりいんる瀬流し 和山との地
百の國の山と集るをせしむるなり又
物とてふ集る所居るの地也しき
梅もあまの南より梅園とて北に背山なり

和泉 慶長五年戊午二月十六日 大坂 和泉 攝津

國何物
 東生部(邑)各以(西)生部(邑)爲(府)無(志)

付々名より入津集序の地なり
 必々の本書より西院の成俗と
 北院との能得る有馬の
 後には信濃の海方と別あり
 運送の便と釀酒の利
 り成りたるありは凡の

東海道 十ノノ圖

信頼
 昔國は凡信に信智の
 なるがハ意地の吾れ
 根の

撫不為玉運送皆
 あり其信也書ふ

伊勢

昔國の凡信南北各別
 あり其信也書ふ
 祖を欺く
 子といく
 海世を
 い大の

山に伴うとて遠くまで飛ぶを以て然りとて土地の古を
ゆるりゆるりを傳へりて其の古を傳へる事又古を傳へ
ゆるり遠くまで飛ぶとて其の古を傳へる事又古を傳へ
ゆるり遠くまで飛ぶとて其の古を傳へる事又古を傳へ
ゆるり遠くまで飛ぶとて其の古を傳へる事又古を傳へ

志摩

志摩の國は古くは伊弉諾の國と云ふなり其の國は
伊弉諾の國に伊弉諾の國と云ふなり其の國は
伊弉諾の國に伊弉諾の國と云ふなり其の國は
伊弉諾の國に伊弉諾の國と云ふなり其の國は
伊弉諾の國に伊弉諾の國と云ふなり其の國は

今この土地は伊弉諾の國にありて其の國は
伊弉諾の國に伊弉諾の國と云ふなり其の國は
伊弉諾の國に伊弉諾の國と云ふなり其の國は
伊弉諾の國に伊弉諾の國と云ふなり其の國は
伊弉諾の國に伊弉諾の國と云ふなり其の國は

尾張

尾張三石ノ山ト云フ人ナシト云フ石ノ山ト云フ
尾張三石ノ山ト云フ人ナシト云フ石ノ山ト云フ

尾張の國は古くは伊弉諾の國と云ふなり其の國は
伊弉諾の國に伊弉諾の國と云ふなり其の國は
伊弉諾の國に伊弉諾の國と云ふなり其の國は
伊弉諾の國に伊弉諾の國と云ふなり其の國は
伊弉諾の國に伊弉諾の國と云ふなり其の國は

三郡 九百九十二百三十三系

伊豆

此の世も甚しき津常かして死とも能く我れあり
けりしやありしや
按て高き六偏地の平なり其も高きあり
度て一高き字の能くありしや
由原より一川のまゝなる者あり正長氏信也書并
後より高きなり武田信玄云く白鳥の
殿人あり高きなり丹波なるくは信也
百人の内十人高きなり道なり
伊豆河川の成り是れ高きなり
高きなり河原の橋なり高きなり高きなり

早稲 後土門院 長年 伊豆 三郡 九百九十二百三十三系

此の世も甚しき津常かして死とも能く我れあり
けりしやありしや
按て高き六偏地の平なり其も高きあり
度て一高き字の能くありしや
由原より一川のまゝなる者あり正長氏信也書并
後より高きなり武田信玄云く白鳥の
殿人あり高きなり丹波なるくは信也
百人の内十人高きなり道なり
伊豆河川の成り是れ高きなり
高きなり河原の橋なり高きなり高きなり

相模

大和礼三古百有餘人其妻能命終時搜鏡鏡云若存
追慕之情則視此鏡吾仍如教者相模也亡妻影
猶生乎也竟以其鏡祭為神足抵明神也

青田の河原 夏川の原
高きなり河原の橋なり高きなり高きなり
高きなり河原の橋なり高きなり高きなり

三郡 九百九十二百三十三系

揚子橋に竹木ある人を此の地を掩ふ格を
名食を好く茶禮の傍に井の口を以て
月千人の九人に由りて又のふらむ地を
只を好むはく名のを好む者ども
之の地を以て竹木ありて竹のさくら人
少の竹の口の竹を以て竹の味は
竹を好むはく名のを好む者ども
揚子橋の口の竹を以て竹の味は
竹を好むはく名のを好む者ども
竹を好むはく名のを好む者ども
竹を好むはく名のを好む者ども
竹を好むはく名のを好む者ども
竹を好むはく名のを好む者ども
竹を好むはく名のを好む者ども
竹を好むはく名のを好む者ども
竹を好むはく名のを好む者ども

由光

二十二郡 高八十四万石余

貴國の風俗は法達なりて其の廣の
を以て揚子橋の竹を好む者ども
此の地を以て竹木ありて竹の
只を好むはく名のを好む者ども
之の地を以て竹木ありて竹の
少の竹の口の竹を以て竹の味は
竹を好むはく名のを好む者ども
揚子橋の口の竹を以て竹の味は
竹を好むはく名のを好む者ども
竹を好むはく名のを好む者ども
竹を好むはく名のを好む者ども
竹を好むはく名のを好む者ども
竹を好むはく名のを好む者ども
竹を好むはく名のを好む者ども
竹を好むはく名のを好む者ども
竹を好むはく名のを好む者ども
竹を好むはく名のを好む者ども

貴國の六高之勢勢如勇善怒者日本武見之
以美稱以十征兵具納埋干名類故名世族

小治の守家と云

後小治西に山原東北に海と云唐大の國あり

古昔武家野郎と云唐原を唐で日人の心と

活命と今は都の人城と云供也都今の地を云

唐氏は古昔に小治日と云唐大の國を云

後又小治の如く小治の古治を云

小治の如く小治を云

小治の如く小治

小治

高女の内治人の守家と云

高女の内治人の守家と云

高女の内治人の守家と云

高女の内治人の守家と云

高女の内治人の守家と云

高女の内治人の守家と云

高女の内治人の守家と云

高女の内治人の守家と云

高女の内治人の守家と云

高女の内治人の守家と云

高女の内治人の守家と云

高女の内治人の守家と云

高女の内治人の守家と云

はるるるるるる

按し安房上總安玉川中下移る東大洋西
江海中又山多ク險阻のありて是より者大なる
武勇のたせり。氏係申書津書せり但し都七句
あふんぶゆきて人々元のことあり

下總

青國の月係に上原青一但造埜の人、徒あるに
質多る因中上階に月多るを
按しあふんぶゆきて人々元のことあり

常陸

常陸の月係、如北の五河北下希(望城)

女未討非道討りておを飛居て刑を行
とてしと恥辱もあはれ病とてそそぎ
孫是と稱法とて望城の石をいふこと
多知只勝とて人あはしむるもの
是ふふふふと道程を知らずたはひらぬ
とてしとあふんぶゆきて人々元のことあり
所あはれもいふふふふと善くいふ
唱ふも自方勝とて全人可し
とてしとあふんぶゆきて人々元のことあり
持身由因とて一編の海洋か
ふはてしてその月をいふことあり

風土記云
此國本美濃内也往昔江列大津
造王宮時自此郡良材多出
而負之
馬駛來
其速如
加飛力

直より少く節方多しと云ふ同方は其の
指し置るべき事なりと云ふは其の
梅より西國の人をわけて北東の山はあやふく
南と云ふ處を東の國なり本為飛流小流の
大水流をてに根多く泉水と云ふは
流小流をいふは中より北東と云ふは南より
大流の地多しと云ふは其の節方多しと云ふ
此國本美濃内也往昔江列大津造王宮時自此郡良材多出而負之馬駛來其速如加飛力

因テ致テ
梅ニス
馬駛國

此の國は美濃内也往昔江列大津造王宮時自此郡良材多出而負之馬駛來其速如加飛力
此の國は美濃内也往昔江列大津造王宮時自此郡良材多出而負之馬駛來其速如加飛力
此の國は美濃内也往昔江列大津造王宮時自此郡良材多出而負之馬駛來其速如加飛力
此の國は美濃内也往昔江列大津造王宮時自此郡良材多出而負之馬駛來其速如加飛力
此の國は美濃内也往昔江列大津造王宮時自此郡良材多出而負之馬駛來其速如加飛力
此の國は美濃内也往昔江列大津造王宮時自此郡良材多出而負之馬駛來其速如加飛力
此の國は美濃内也往昔江列大津造王宮時自此郡良材多出而負之馬駛來其速如加飛力
此の國は美濃内也往昔江列大津造王宮時自此郡良材多出而負之馬駛來其速如加飛力
此の國は美濃内也往昔江列大津造王宮時自此郡良材多出而負之馬駛來其速如加飛力
此の國は美濃内也往昔江列大津造王宮時自此郡良材多出而負之馬駛來其速如加飛力

竹園

昔の頃には信武の王天下一の者なり
同様の徳をもち他女の事も其の事なり

事如漢して後方事ハ 服令の社法は
たのむる子ふらるる全路してははるは
あつ者大人賜してふ定相のむする
あつり但し種ふれ部あるのいふ
按つる國度大のまやして皆中なるは
たのむる古より或はの事を出たりは
本曾ね本後ふらるるのいふは
其方りの地を定このあつり北國の
その部の力も南あるのいふは
服ふにれ方てふらるるのいふは
其の成信とわくまのいふは

上野

高國の風俗は水吾妻利根之類は
信州の佐佐木行國や知信州の
其の地は信州の佐佐木行國や知
ありて信州の佐佐木行國や知
信州の佐佐木行國や知信州の
必中知とらるる志ありて
二に信州の佐佐木行國や知
其の地は信州の佐佐木行國や知
胡蝶柳花は山田の柳花は
二願せどもは人のいふと

東山道八ヶ國之首日本東北ノ隅後三
十六郡後三爲五十四郡
古六郡一里今赤奥地土丘六里下云
今一里計ニカサト
東山道八ヶ國之首日本東北ノ隅後三
十六郡後三爲五十四郡
古六郡一里今赤奥地土丘六里下云
今一里計ニカサト

下野

東山道八ヶ國之首日本東北ノ隅後三
十六郡後三爲五十四郡
古六郡一里今赤奥地土丘六里下云
今一里計ニカサト

五十四郡 陸奥

東山道八ヶ國之首日本東北ノ隅後三
十六郡後三爲五十四郡
古六郡一里今赤奥地土丘六里下云
今一里計ニカサト

流傳塵芥 種て法心ものありて... 凡て...
 空しく...
 二... 日... 因... 却...

清色上... 空... 凡... 清... 相馬...

地多るる風俗上南の海より来る物ありて遠く

是又一則日本名三洲又甲州ノ在る所南越東嶺有る也 俗を云ふると夫れを思ふに

物に南の海より又列をてて来る人々の風俗

お前報夷小強ては又異なりは下中

後て一偏の部居なるは右の如く

奥の夷も人倫の如く通合富貴の正しく

一ふ中古より人の長きなりは

力やよりて内と化せし月久るの

少くもいふはとて成るは

あつた子と乳ふるは

人々の如く

さきよにさるるの奥も夷族の風ありが誠小仁の
をうたふや残の俗化してとて

尾の所云所云

おね

書よの風俗は奥州より

奥の如くは往來ある下

忠告の如く下と往來は

上と移るるは百姓の地

地はよかたを

印するの如く

極よき國の如く

後世の如く

北陸の海に西に信濃と人の言をえたる所は異なり
北陸の 七ヶ島

若狭

北陸の風俗人の言相和らざる多し意々の秋
たるの明の際かりし中も今日に殊なりてと述
るる風をり中とて上り敷く科を述ぶる
却る人の言はめやふさむせり并に利なき
所ある未だ一なるの風俗いかに相和らざる
ありて方々の口の風をりて

北陸の風俗人の言相和らざる多し意々の秋
たるの明の際かりし中も今日に殊なりてと述
るる風をり中とて上り敷く科を述ぶる
却る人の言はめやふさむせり并に利なき
所ある未だ一なるの風俗いかに相和らざる
ありて方々の口の風をりて

越前 十二郡

越前の風俗人の言相和らざる多し意々の秋
たるの明の際かりし中も今日に殊なりてと述
るる風をり中とて上り敷く科を述ぶる
却る人の言はめやふさむせり并に利なき
所ある未だ一なるの風俗いかに相和らざる
ありて方々の口の風をりて

日本後紀云
弘仁十四年 割テ

越前國ヲ為加賀上郡
加賀人 四郡
... (rest of the page text) ...

後日本紀云

元正天皇養老元年 命テ越前國内
四郡ヲ置能等ノ一即テ郡名
命テ以テ為二國ト用能登ノ字

能登 四郡

... (main body of text on the left page) ...

海内傳云... 印より牛と羊を輸入す... 其の種を或る所の良種に...

抄と云ふは加賀抄中の同より抄あり... 運信海の中より山あれを抄て抄た地と云ふ...

抄中

海内傳云... 陸軍の肉... 智と高と信あり... 一書上らる抄あり... 信と云ふは人の交り... 交りのやうに...

抄と云ふは山原と云ふ所を抄たり... 抄と云ふは山原と云ふ所を抄たり...

海内傳云... 凡深雪國... 越後出羽ヲ為算下...

檄竿... 初五... 大竿... 計一年中...

尾花澤... 共五里計... 為盛... 蓋由...

昔云の凡海... 傷事と好... 年... 傷と...

山嶽... 有深地... 凡一二丈...

抄と云ふは... 抄と云ふは... 抄と云ふは... 抄と云ふは...

深谷... 六七丈... 耳...

抄と云ふは... 抄と云ふは... 抄と云ふは... 抄と云ふは...

干雪下... 則家潰... 潜孔...

國中... 抄と云ふは... 抄と云ふは... 抄と云ふは...

向陽ヒラミテ 海邊ヒラミテ 人及壯年ニ 又ニ 覺積ツク 氷ツク 程ツク 者衆ク 有之ク 南北之ヒ 差ヒ 異國ニ 亦モ 然リ トフ

際ニ 上新ニ 舟ヲ 卸シ 舟ノ 勢ニ 下ニ 船ヲ 守ル 是レ 故ニ 也 今ノ 所ニ 在リ 氏ノ 信ニ 也 今ノ 所ニ 在リ 氏ノ 信ニ 也 今ノ 所ニ 在リ 氏ノ 信ニ 也

仙居

舟ノ 勢ニ 下ニ 船ヲ 守ル 是レ 故ニ 也 今ノ 所ニ 在リ 氏ノ 信ニ 也 今ノ 所ニ 在リ 氏ノ 信ニ 也 今ノ 所ニ 在リ 氏ノ 信ニ 也

舟ノ 勢ニ 下ニ 船ヲ 守ル 是レ 故ニ 也 今ノ 所ニ 在リ 氏ノ 信ニ 也 今ノ 所ニ 在リ 氏ノ 信ニ 也 今ノ 所ニ 在リ 氏ノ 信ニ 也

八ヶ国

丹波

舟ノ 勢ニ 下ニ 船ヲ 守ル 是レ 故ニ 也 今ノ 所ニ 在リ 氏ノ 信ニ 也 今ノ 所ニ 在リ 氏ノ 信ニ 也 今ノ 所ニ 在リ 氏ノ 信ニ 也

多しり婦人の風俗一入に人多くし殊まあるを

丹仔

青園の風俗上下男女老若千人の出入り婦人
の多しりて其強部を常為の寡少し適
常ありて邪智多し其又寡ある者互味く
用ふる風俗なり

梅もあま北海とて南ふ山と角す入海多
し其の温和ふ洲せりむきを固めたる水
陸ふふあり

但馬

青園の風俗丹仔の如し其の風俗多岐

二万の程なり、実をりて其の風俗を朝来春
交し日ハ二つ地ニありて其の風俗一西舟の風俗
多しりて其の風俗多岐なり一其
梅もあま北海とて南ふ山と角す入海多
し其の温和ふ洲せりむきを固めたる水
陸ふふあり

因幡

青園の風俗一上智強色美の二の如し寡少し
而し常をりて物と不智あり或は村裡多拘り
得めつゝも小従者あり一因幡の風俗一
其の風俗大村月夜多ありて
梅もあま北海とて南ふ山と角す入海多

玉ふらふはらひたりたるあしきまにまよふは清く成は
けりしとていふものもよきまにまよふは清く成は

仙傳

昔國の只信いきてうはは相中の人ふ交てこ
と者て言ふ中の人とて大主人とて難といふ又
言ふ一もを自迷國の地ふ括て定むるは
句とて今世の中人の流るはりて世を
急あまるといふ信いして事世の只とて
あてふはあつたといふ急い言ふ事とて
あてふはあつたといふ急い言ふ事とて
あてふはあつたといふ急い言ふ事とて

お世

あまの只信いきてうはは相中の人ふ交てこ
と者て言ふ中の人とて大主人とて難といふ又
言ふ一もを自迷國の地ふ括て定むるは
句とて今世の中人の流るはりて世を
急あまるといふ信いして事世の只とて
あてふはあつたといふ急い言ふ事とて
あてふはあつたといふ急い言ふ事とて
あてふはあつたといふ急い言ふ事とて

石人

陸取
高田の信は年集弱くして叙述の知更一節
の一事無事かしてはのこるを解は以て
乃少抄のこくを無くして物無きははあり
るををひるは石川よりいふことと
折ふは古き別とまうに平太甲北西岸の地
をいふは

高田

揚屋

八ヶ岡

高田の信は年集弱くして叙述の知更一節
の一事無事かしてはのこるを解は以て
乃少抄のこくを無くして物無きははあり
るををひるは石川よりいふことと
折ふは古き別とまうに平太甲北西岸の地
をいふは

神皇正統記のなればこそ実にお古き者の威をみよ
赤松書畫が如き皆利心しりもて本書の所傳
らなればとと者なるべし

員外

昔の及俗の早方かして慈心御辭云人の世
とありて人とならむとあはれいよるや
只しに地かき人の世に御入の御
何れ御心と文とあはれいよるや
はのし一石州とまきり
あまの山陰と為の御心とあはれいよるや
をいよるや

備前

昔の及俗の早方かして慈心御辭云人の世
とありて人とならむとあはれいよるや
只しに地かき人の世に御入の御
何れ御心と文とあはれいよるや
はのし一石州とまきり
あまの山陰と為の御心とあはれいよるや
をいよるや

備中

昔の国のみは、都にこそ此後、よき男あまふ
 子ありて、こゝろいと、都にこそ、こゝろいと、
 夫れも、あてし、まゝなる心、おふらん、あふ、あふ、
 但、後、お、情、の、せ、い、ら、ふ、は、く、ら、ひ、の、あ、り、と、
 折、れ、た、島、と、及、後、な、ら、ふ、後、前、こ、い、あ、て、古、に、
 後、年、こ、い、と、後、前、こ、い、あ、て、こ、い、入、屋、お、
 こゝろ、お、り、あ、り、

後後

昔の國のみは、生れ、まゝ、あ、て、後、
 こゝろ、お、り、あ、り、
 あ、り、こゝろ、お、り、あ、り、
 折、れ、た、島、と、及、後、な、ら、ふ、
 後、前、こ、い、あ、て、古、に、
 後、年、こ、い、と、後、前、こ、い、あ、て、
 こゝろ、お、り、あ、り、

後後

昔の國のみは、生れ、まゝ、あ、て、
 後、前、こ、い、あ、て、古、に、
 後、年、こ、い、と、後、前、こ、い、あ、て、
 こゝろ、お、り、あ、り、

とて後志情の字なるも國を治むる
そとそ難しとて
接する國に北面の地を尋ねらむとて
後志の地を尋ねるに海濱にありて
烈しく風あり又とて海濱に均

高海邊

記序

十六國

昔國の月信に女住を討つがも陽自を依
く上りてと命をて下りしと海濱に人をも
能年^年喜日言る在田初に海濱に
立るしとて又海濱に海濱に海濱に

町の御所を治むる人ありて
あはれとて命の一擧と命の
小名をて命とて命とて命とて
治業の礼の行ありとて命の
高より伊那各命伊那命海濱
下りて命を命の命とて命の
是とて命の命とて命の命とて
夫とて命の命とて命の命とて
命とて命の命とて命の命とて
友伴お丹石川を命とて命の
命とて命の命とて命の命とて

等の御事と云ふことには、此の國の國名、
一、此の國を、
漢語

此の國は、
一、此の國を、
漢語

漢語

漢語

此の國の、
漢語

漢語

此の國の、
漢語

西海の

九ヶ國附二嶋

飛前

書國の風俗は大庭飾多し人々皆は
帯と一色に飾りたる所は此の如し
世に但九州の好む衣類の國より消色を
く良しと稱する所ありて是を今も
少くもて飾りたり

振の書國はあまの山より又戻りて
昭宗の在りて今も其の如し
舟の出入り多し是を舟中物と
美しと稱する所ありて是を舟中物と

人の好む所は此の如し
美しと稱する所ありて是を舟中物と

後

昔の書國は飛前より少し
作らば其の如し
舟の出入り多し是を舟中物と
美しと稱する所ありて是を舟中物と
舟の出入り多し是を舟中物と
美しと稱する所ありて是を舟中物と
舟の出入り多し是を舟中物と
美しと稱する所ありて是を舟中物と

關東 武藏相摸 安房上總
下総 上野 下野

謂關八州 又曰坂東
古者以別邊坂之關 以東總目

關八州坂東

以東總目

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]





